

ふるさとで守る命の水

奈良県 天川村立洞川中学校

二年 更谷 昂

僕が住む奈良県天川村は、環境省選定名水百選「洞川湧水群」のある名水の里だ。ここに住む僕達は、昔から水を大切に守りながら暮らしている。しかしながら、近年はゴミの放棄やポイ捨てが多く見られ、今年の四月には、村民が一丸となった「村民ボランティア清掃」が行われた。村民皆で協力して収集したゴミの量は、一般家庭ゴミ、観光ゴミ、鉄くず等、二トトラック五台分であった。この様に、天川村では、水を育む環境を守る取り組みとして、清掃活動や名水まつりなど様々な行事が行われている。

そこで僕は、天川村以外の地域で、水を大切にする取り組みが行われている場所のことを知りたくなり、近畿の水がめと呼ばれている琵琶湖に注目した。琵琶湖は、近畿圏のおよそ千四百万人に生活用水を供給し、多くの生き物が生息するところである。僕は、インターネットで、平成の水百選に選定された、滋賀県高島市にある、「生水（しろうず）の里針江」の事を知り、早速家族と共にそこへ出かけた。針江地区は、「生水（しろうず）」という豊富な湧水を使い、「川端（かばた）」という生活用水システムを六百年以上受け継ぎ、守り続けているところだ。生水（しろうず）

とは生きた水という、素敵な表現だ。川端とは、比良山系からの地下水脈に管を通し自噴させ、その水を壺池という壺に溜め、壺池からあふれ出た水は、少し低い位置にある端池という池に流すシステムである。壺池は、飲料や野菜を冷やす為に利用、端池は野菜などを洗う為に利用される。端池には、洗った野菜くずや米粒などをエサとして食べるコイなどの魚が飼われており、水を清掃する役割を果たし、昔は成長したら食べていたそうだ。

端池は、水路、河川へとつながり、琵琶湖から昇ってきた魚などが自由に出入りしている。僕は、宿泊施設で、川端という素晴らしい循環システムを体験し、人と人、自然と人とのつながりを強く感じる事ができた。

翌日は、地元ガイドによるエコツアーに参加した。午前中は「高島市うおしまプロジェクト」地のいくつかを見学した。このプロジェクトは、失われた琵琶湖の環境を取り戻す事により、魚たちが産卵、生育しやすい環境づくりに取りくんでいる。午後は、針江の各家庭にある、様々な川端などを見学した。針江の方々は、川端や生き物の生息環境を守る為、年三回の川掃除、年一回の水路掃除、十二月のヨシ刈り、二月のヨシ焼き等を行っている。川や水路を琵琶

琵琶湖から昇ってくる魚などの生き物の産卵、生育場所とする為には、定期的な河川の藻などの草刈りが必要だそうだ。エコツアーを通して僕は、琵琶湖の環境を守る為に、地域、官公署、研究機関、企業等が連携、協力している姿に感動した。

水は僕達の生命を育むと共に、多くの生き物を支えてくれるとても大切なもの。天川村と針江は、共に、そこに暮らす地域の人々の絶え間ない努力によって、安全でおいしい、多くの生き物が暮らしていける水が守られている。針江での体験を通して僕は、水は地球規模で循環しているイメージを、より一層実感することができた。だからこそ僕は、限られた資源である水に感謝し、水の節水に努め、河川のゴミ拾いなど、友達にも呼びかけ自然を守る活動をしていきたい。

日常の中で行う、小さな活動でも、その活動の輪が広がっていけば、一滴の雨が大河となるように大きな成果となると思う。僕にとって美しい水を育む天川村の自然環境は、誇りであり宝物だ。僕はもっと様々な地域の水の歴史や文化に関心を持ち、先人の暮らしの知恵に触れてみたいと思うようになった。

「天川村や、針江の命の水は、ふるさとの心で守られている。」